

玉川上水・野の花だより No. 26

ムラサキシキブ（紫式部）

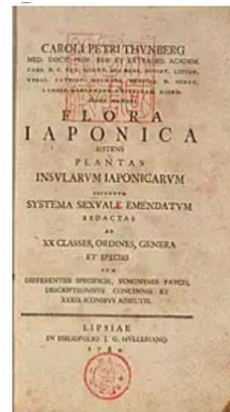
中央大学研究開発機構・機構教授 東京大学名誉教授

石川 幹子

2026年 7月7日

笹塚緑道で、淡い紫色の煙ったような花が咲きました。ムラサキシキブです（写真1）。学名は *Callicarpa japonica*, Thunb. var. *japonica* で、スウェーデンの植物学者のカール・ツンベルクが命名しました。ツンベルクは、リンネの弟子で、長崎の出島で商館医を務め、多数の植物標本を持ち帰り学名をつけました。*callos* は美しいという意味で、*carpos* は果実です。秋になると、美しい紫色の小さな実をつけます（参考）。

右の本は、1784年に出版されたツンベルクの著作『*Flora Japonica*』で、後にシーボルトが、尾張の医師伊藤圭介が長崎を去るときに、餞別として贈った本です。



引用：国立国会図書館
国際化と多様化のなかで
—19世紀 | 描かれた動物・植物：江戸時代の博物誌 | 電子展示会

花はめだたないので、これがムラサキシキブと気が付く方は少ないと思います。6月～7月にかけて、集散花序をだし、多数の小さな花をつけます。花冠は4つに分かれ、丸みを帯びています。「どうして、紫式部という名前がついたのか？」牧野富太郎は、「優美な紫色の果実を才媛、紫式部の名をかりて美化したものである」と述べています。涼しい秋風が吹くころ、気品のある「紫式部」をご覧ください。いただければと思います。



写真1 ムラサキシキブ（紫式部）

2026年7月6日笹塚緑道

参考：紫式部（2023年9月）

東京都千代田区四番町

「江戸のみどり登録緑地」